

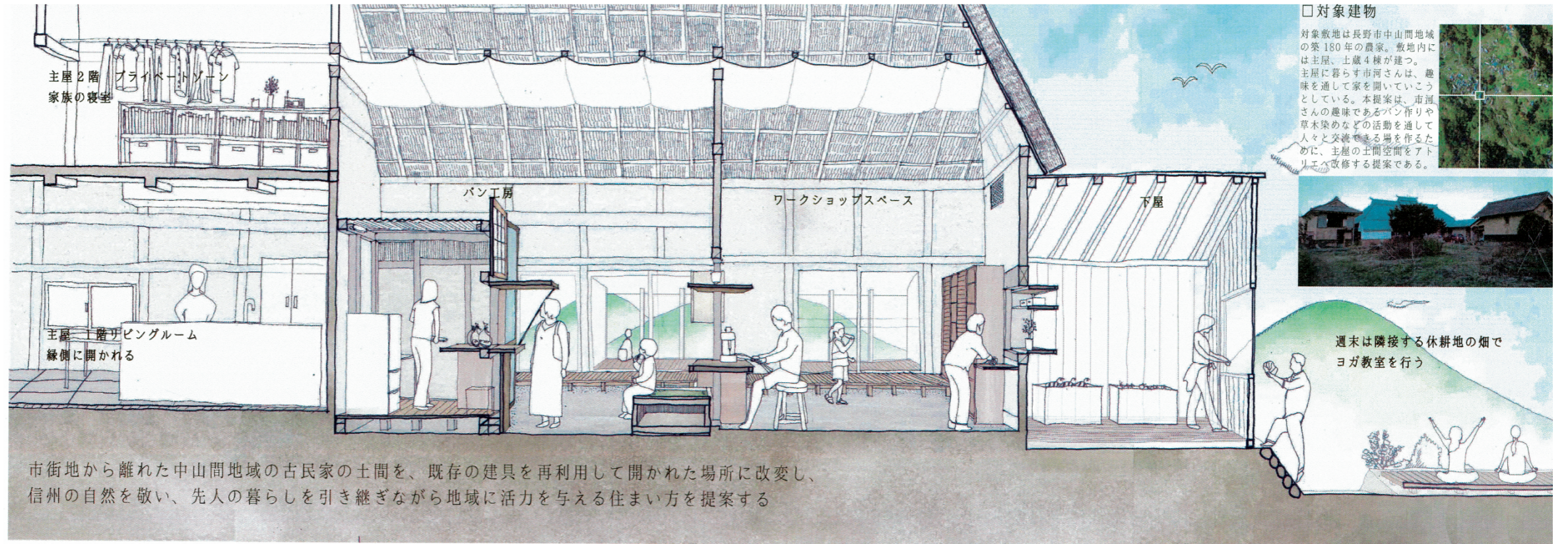
繋がる土間、継がれる記憶-既存建具の再利用によって開かれる住まい-

応募者 信州大学 寺内研究室（寺内 美紀子、堀田 翔平、奥村 拓実、安田 隆広、秋山 由季、水木 直人）

作品のコンセプト

市街地から離れた中山間地域の古民家の土間を、既存の建具を再利用して、開かれた場所に改変する。信州らしい、信州の自然を敬

い、先人の暮らしを引き継ぎながら地域に活力を与える住まい方を提案する。

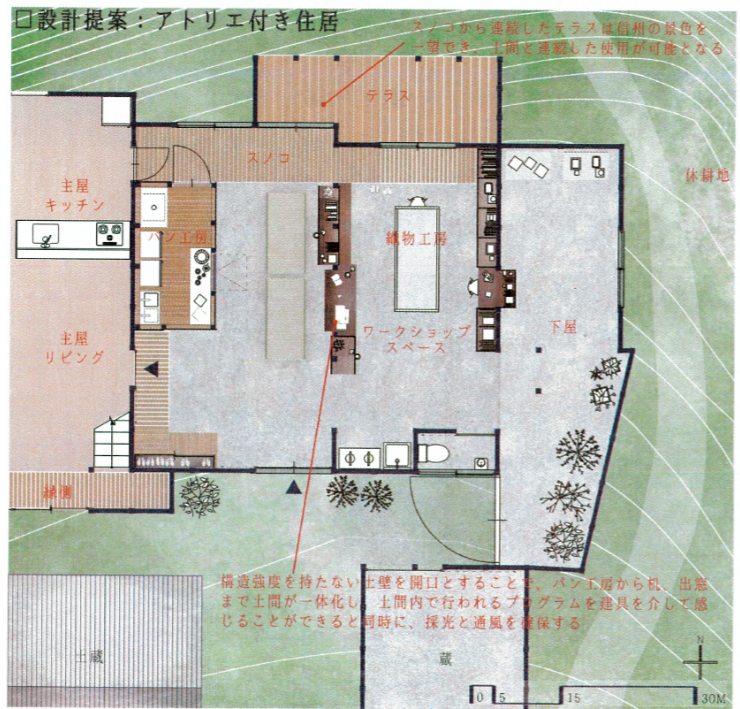


市街地から離れた中山間地域の古民家の土間を、既存の建具を再利用して開かれた場所に改変し、信州の自然を敬い、先人の暮らしを引き継ぎながら地域に活力を与える住まい方を提案する

□対象建物
対象敷地は長野市中山間地域の築180年の農家。敷地内には主屋、土蔵4棟が建つ。主屋に暮らす市河さんは、趣味を通して家を開いていこうとしている。本提案は、市河さんの趣味であるパン作りや草木染めなどの活動を通して人々と交流できる場を作るために、主屋の土間空間をアトリエに改修する提案である。

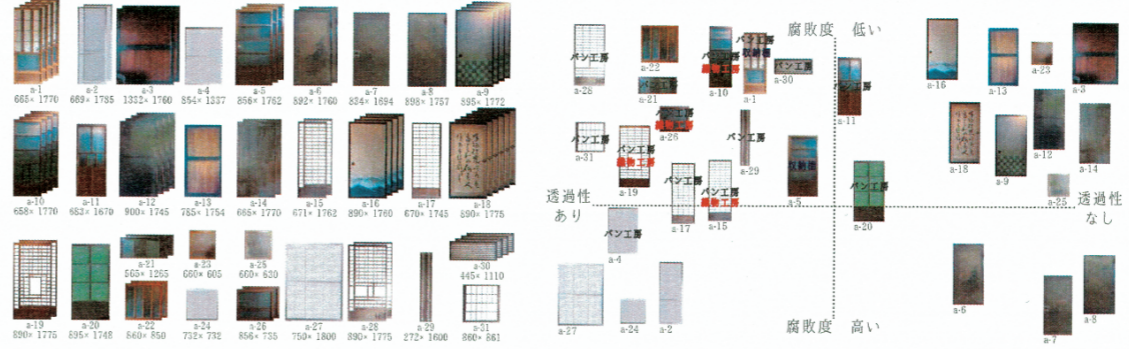


週末は隣接する休耕地の畑でヨガ教室を行う



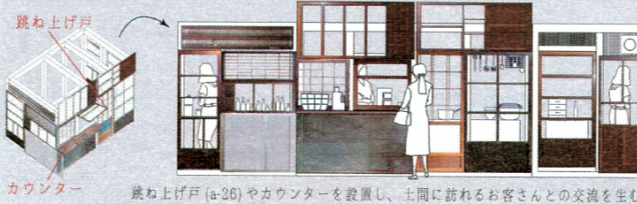
□既存建具の実測と性能評価

もともと主屋で利用されていた既存建具が60枚以上残っており、全てを実測してリスト化した。このうち状態がよく十分な強度があるものを判別し、再利用して設計に活用する。



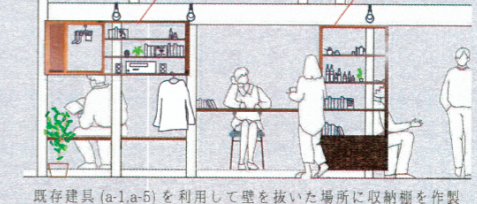
■パン工房

パン生地の生成や熟成、パン窯で焼くまでの全ての工程を行う。14枚の既存建具から柱間を決め、パッチワークを行い、既存建具を活用することで視界の透過性だけでなく、記憶が確保される。



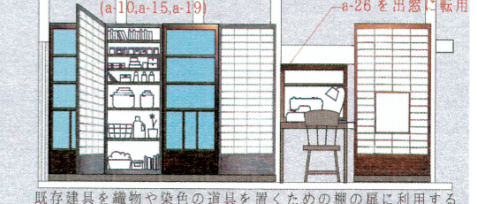
■収納棚

既存建具(a-1,a-5)を利用して壁を抜いた場所に収納棚を製作



■織物工房

織の原に既存建具を利用(a-10,a-15,a-19) a-26を出窓に転用



- 主屋の改修の際に撤去された建具を、土間空間の工房や収納棚の材料として活用
- 歴史的な資産を外観だけでなく空間的に引き継ぎ、環境負荷の低減や改修費用の削減を可能とする

「住まい方」の提案

信州には空き家や古民家が多い。提案では、中山間地に建つ築約180年の古民家を改修し、民泊やアトリエのようなセミパブリックな空間を設けることで、地域に開かれていくことを目指す。プライベート空間を確保しつつ、土間や蔵、屋外をパン

作りや草木染めといった趣味のスペースや、ワークショップなどの開かれた場所に。店舗併用型住宅よりも緩やかで、「人」と「地域」を優しくつなげる場づくりを提案。

審査員講評

人口減少が著しい中山間地域において、建築としての古民家のみならず、風景や文化も含めた「地域の記憶」を継承しようとする本提案は、これからの信州における住まい方を考える上で、きわめて示唆的である。なかでも、古民家の豊かな内部空間を生かし、セミパブリックな

空間を広く設ける提案は、古民家活用に新しいバリエーションを与えている。すなわち、これは地域の記憶を共有し、継承する「ローカル・メディア」として建築を捉え直す試みであり、地域に新しい commons を生み出す可能性を感じさせる提案といえる。（武者 忠彦）